

第12回 イオンモール銚子杯少年野球大会規則

【チーム構成】

1. ベンチに入ることのできる人数は、代表者1名、監督1名、コーチ2名、介護員2名、スコアラー1名、選手20名以内と撮影者1名（ベンチ内撮影のみ）とする。

【用具・服装】

2. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「JSBB」公認マーク入のものに限る。但し、破損（変形）・加工バットの使用は禁止する
3. 打者、次打者、走者、ベースコーチ、ボールボーイはヘルメットを必ず着帽すること。
4. 捕手（控え捕手も含む）は、マスク（スロートガード付及び一体化も可能）「SG」「JSBB」公認マーク入りレガース・プロテクター・ヘルメット及びファールカップ（女子選手を除く）を着用する。
5. 金属製スパイクは禁止する。

【試合開始前】

6. メンバー表の提出は、第1試合は開始30分前に、第2試合以降は前試合の3回終了時に監督と主将が4部を本部に提出する。
7. 先攻・後攻は主将がジャンケンで決める。ベンチは若番が1塁側で点滅器（BSO）の責任を持ち、3塁側はスコアボードの点数表示の責任を持つ。（球場により変更あり）アナウンスは銚子市野球場のみとする。
8. シートノックは5分間とする。但し、状況により行わないこともある。
9. シートノックを行うノッカーにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽のうえ前方からの手渡しとする。試合中の球審へのボール渡しをするボールボーイも必ずヘルメットを着帽する。

【試合】

10. 大会の試合形式はトーナメント戦とし、1試合1時間30分、6回均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを優先とする。1時間30分を越えた時は新しいイニングに入らずにその時点の得点をもって勝敗を決する。同点の場合は、以降タイブレークを適用する。

《タイブレーク》

打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者が1塁として2塁・3塁の走者は順次前打者として1死満塁で勝敗が決するまで継続打順にて繰り返し行う。
（決勝戦も同様）

- 11.得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了後以降10点差以上、及び4回均等回終了後以降7点差以上の時に適用し、日没・降雨によるコールドゲームは、4回均等回終了時に適用する。但し、決勝戦は得点差によるコールドゲームは適用しない。
- 12.上記11項おける「3回均等回終了、4回均等回終了」については、3回表又は4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合、3回又は4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。
- 13.死球等により手当てが必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者とする。（投手・捕手を除いてもよい）。
- 14.同一投手の投球回数は、1試合12アウトとし、1日24アウトまでとする。
4年生以下は、1試合9アウト、1日18アウトまでとする。
- 15.アウトを取る意思のない投手の塁への牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はボークを宣告する。
- 16.申告故意四球を採用する。
- 17.審判員に対するアピールは、監督と当該選手に限り認める。また選手交代を行うときは監督が球審に申告する。試合中のメガホンの使用は監督に限り認める。
- 18.本大会では指名打者制度は適用しない。
- 19.1試合のタイムの制限は、監督・攻撃・守備回数共に3回までとする。但し、守備時に監督が選手を集めた場合は監督1、野手1とする。延長タイブレークの時は、1イニングにつき各1回とする。
なお、同一イニングに監督が2回のタイムを行っても投手の交代を行わなくてよい。
- 20.その他については、2026年度全日本公認野球規則に準ずるものとする。

【その他】

- ①悪天候により中止の場合は、当日の午前6時00分に事務局から各チームへメールで連絡します。
- ②参加チームは、審判員（球審を含む）を2名帯同してください（審判服着用）。
- ③シートノック終了時及び試合終了後、両チームの関係者はグラウンド整備をお願いします。
- ④試合の進行上やむを得ず1日2試合になることがありますのでご了承ください。
- ⑤参加チームは、必ずスポーツ傷害保険等に参加してください。
- ⑥怪我等の場合、大会事務局では応急措置等の手当ては行いますが、その他については、一切の責は負わないものとします。
- ⑦大会終了後、イオンモール銚子において大会の写真展を開催する予定ですので、写真データの提供について各チームのご協力をお願いします。